

広報
第23号

上野東部だより

2012年12月1日
発行
東部地域住民自治協議会
総務広報部会
伊賀市緑ヶ丘本町1681-8
上野東部地区市民センター内
TEL・FAX 24-3999

初々しい気持ちで 熊野古道を 訪ねて

10月14日、健康福祉部会と健康の駅長会主催の熊野古道遠足に参加しました。目的地は三重県でも最も南の紀和町にある「通り峠」と「丸山千枚田」でした。69名を乗せた2台のバスは7時出発、途中2度の休憩を挟んで11時頃、現地の案内人3人が待つ通り峠入り口に到着しました。通り峠登り口周辺で主催者提供のおにぎりをおいしくいただきました。

3班に分かれ、軽い体操のあといよいよ出発しました。すぐに幅1メートルたらずの山道となりましたが、きれいな石畳の古道をフウフウハアハア息を切らせながら峠に向かいました。峠には子安地蔵が祀られており手を合わせました。心地よい風を受け、森林の空気を吸いながらゆっくりと下山。すがすがしい気持ちになりました。が、日頃鍛えてない身体には結構きつい峠道でした。

このあと、日本最大とも言われる丸山千枚田の景観を楽しみました。昔は2,240枚もの棚田があったそうですが、年々放棄地が進み、崩壊寸前であったのを救ったのがオーナー制度による棚田復活作戦で、現在のようにならぬようになりました。1枚の中に、たった3株しかないミニミニ田がかわいらしかったです。でも、「一時のブームが去りつつあり、この先も復活したこの景観が残せるかどうか心配しています。」と



案内人の説明に保存運動の難しさを感じました。

今回で10回目を迎えたという熊野古道遠足。総務広報部会に所属したおかげで、こんな楽しくて健康によい企画があると初めて知り、参加させていただきましたが、すでに最終回。残念ですが今後の企画に期待したいと思います。



〈取材：岡本ひろ子〉

日進月歩する防災・救護



**東部初！
リヤカーに要援護者を乗せて
避難場所への移動から始まる。**

10月20日、朝の冷たさが残る8時30分から二つの公園に集まった大勢の訓練参加者。一隊は、さくら公園からスタートしたグループ（上野町のつく自治会）と、もみじ公園グループ（城北、北平野自治会）がそれぞれリヤカーに「要援護者」各2名ずつを乗せて50分に避難誘導訓練がスタート。

パーティーハウス北の広場に向かう避難訓練は、初めての経験で消防車の誘導のもと、「要援護者」に気配りしてボチボチの歩行でしたが無事に避難に成功しました。

「要援護者」役の方々には、「こんなええもん買ってくれて。けど、お尻が痛いわ」「横にならなければならない人のときも考えると毛布は必需品やなあ」「贅沢も言えへんけどとっさに用意できるやろか」と実際緊急時への心遣いも。

ステップアップ事業で購入したリヤカーも登場して好評を博しました。

**「迎え水せなアカン」
井戸水をくみ上げる
手押しポンプのスタートは???**

消防署が用意してくれた仮想井戸に取り付けたカラのポンプの最初は、ポンプの上口から水を注いではじめて機能します。高齢者以外はそれが分からず、先輩方に教えてもらいながらバケツリレーへと無事引き継がれていきました。



進化する訓練に学ぶ

防災訓練は 「ホンマ進化してるウ～」

「ウチらは、いつも参加しています」と話してくれたのは田端町から来たという中高年の近所同士二人の女性です。彼女たちが言うには、「なんちゅうても去年とすべておんなしと違うもん」「例えは止血の仕方についても、前の時は、出血場所から少し心臓よりのとこ縛ったら工工で習たけど、今日は出血場所に直接清潔なタオルを当てて押さえんのやうことやったし」。田端町は毎年大きな構えで訓練しているので、今年も(11月18日)参加して勉強しようと思てんねん」と口をそろえて…。



500人分の 炊き出しある手際よく

一旦馬力でてんやわんや。それでも過去4回の経験から時間に余裕を持って「ハイ!できあがり」と。一番ご苦労をかけましたネッ。



市の「ステップアップ事業」として50万円が支給され、それを活用するため東部自治協では『地域防災対策推進事業』を計画しました。

- ①地域の井戸を「災害時協力井戸」として登録制度を設ける…現在進行中
- ②防災訓練において要援護者の避難救助訓練を実施する…リヤカー7台購入(残りは来年度予算で)
訓練初登場のリヤカーは、これらの事業の一環として、今回の訓練で重点的に活用したものです。

わが町 上野伊予町

コミュニティ広場で活性化を

写真1



写真2



写真3



写真4



写真5



写真6



写真7



写真8



上野伊予町を紹介させていただきます。

まず伊予町出入口四か所の写真です。

写真1 農人町側井本薬局と大信洋服店より南に向かう

写真2 田端町側白鳳幼稚園より西に向かう

写真3 田端町側北向水掛地蔵より西に向かう

写真4 寺町側カツハラ理容店より東に向かう

上野伊予町は南北に450メートルと枝道50メートルです。

写真5 中心西側に上野伊予町自治会議所があります。

写真6 町内外より毎日お参りしている北向き水掛地蔵尊です。

写真7 上野伊予町の南北に沿って走っている伊賀鉄道の忍者号です。

写真8 自治会議所と伊賀鉄道との間の土地は、地権者4人が「自治会で利用してください」とのことでのことで、町としては一時避難所として、老人・子どもの憩いの場等コミュニティ広場として整備中です。昨年は、親睦会としてバーベキュー等の会場として利用させていただきましたが、町内人口の半数以上が参加し大変盛り上がり楽しい一日でした。

伊予町という町名を認可されて以来86年になります。当時は130軒余りあった家も今日現在47軒となり寂しいのですが、この広場を拠点として明るい街づくりに役立ってほしいと願っております。



阿波弘康自治会長

高き教えを学び、学問をみがく

三重県立上野高等学校

上野高校は、市内中心地で上野城址近く、自然と文化に恵まれた環境の中にあり、明治32年に開校された三重県第3中学校を前身とし、110年余の歴史があります。

秋晴れの日、文化祭も終わり落ち着いた雰囲気の学校で、土肥校長先生にお話を伺いました。

まず目に入ったのは、校長室の額に入った校訓「自彊不息」(じきょうふそく)です。

これは、中国の古典[易経]の「天行健なり。君子はもって自ら彊(つと)めて息(やま)す」から定められたものです。みずから勉めて励むこと、強い意志をもって日々努力し続けることを教育方針とされています。背筋が思わずピンと伸びました。

現在、全日制1~3年生普通科758名、理数科121名、定時制1~4年生60名が学んでいます。平成21年度からは理数科が設けられました。

生徒たちには、京都大学見学や最先端企業見学などで卒業生の話を聞いたり実験などを経験し、その様子をみずからプレゼンテーションをするなどし、仲間との協力や自分を見つめなおす、キャリア教育に関わる活動もしています。

24年度の全日制生徒3年生280人中、2名だけが就職(公務員)希望で、他は進学希望だそうです。大学選びは、そこで何を学びたいのか、社会に出て何をしたいのかを考えて決めてほしい。コミュニケーション能力を高め、個性を出し、それを発揮できる力を身に付けてほしいと話されました。



土肥校長先生



めざせリーダー

最後に、校長先生の一番伝えたいことをお伺いしたところ「上野高校は地域に期待されている進学校、したがって伊賀のリーダー・日本のリーダーを求められている。高き教えを学ぶところ、学問をみがくことを意識したい」と話されました。

このあと明治校舎を案内していただき横光利一資料展示室を拝見しながら、歴史と伝統ある上野高校で学ぶ生徒たちは、互いに切磋琢磨し、先輩たちに続き、夢を実現できるよう充実した高校生活を送ってほしいと思いました。

(取材：西出 直美)

緊急事態対応で2つの要望書提出

これらは、事態が緊急性を帯びていましたので、それぞれに間髪をいれず、運営委員会を開催し議決されました。その要旨を報告します。



伊賀市長宛

「震災瓦礫の受け入れについての要望書」

9月3日付けで、冒頭「東北大震災による多数の犠牲者に哀悼の意を込めるとともに(中略)避難されている方々への一刻も早い支援、救済を願っています。そして三重県知事の震災瓦礫受け入れ表明と住民に一言の説明もないまま推進するということへの疑問を投げかけ、伊賀米・肉等への風評被害の懸念等住民の危機意識を明らかにしました。

さらに内部被爆への警鐘を鳴らすと共に、 Chernobyl 原発事故から学ぶべきであると指摘しました。

何よりも、瓦礫を受け入れれば、安全な場所と汚染のない野菜などの食料品を提供できなくなります。伊賀市の特性を活かした被災支援に特化すべきものと考えます。と趣旨を強調し提出しました。



9月11日付中日新聞より

伊賀市議会議長宛

「市議会議員の不祥事解明 及び 市議会の自主解散を求める要望書」

伊賀市議会副議長選にかかわって2名の逮捕者がいました。また、今まで不祥事があいついでいることに鑑み、第1義的には市議会自らが早急に不祥事発生の本質を明らかにし、自浄作用の生きる市議会に変えていくことを要望しました。その上に立ってはじめて議会の解散を求めるというものです。

（文責：杉本秀行）

編集後記

今年度より、総務広報部会のお仲間に入れて頂き、部会員として東部地区に関するさまざまな事を勉強させていただいている。今号も皆さま方に楽しんで頂ける記事となるよう願って編集しました。今年もあと1ヶ月となりましたが、来年も皆さまからの情報など、ご協力頂ければ幸いに存じます。皆さん、よいお年をお迎え下さいませ。

（佐山雅代）